



■ テーマ名

音象徴の普遍性と言語個性

■ キーワード

音象徴、言語心理学、英語音声学、音韻論

■ 研究の概要

「ブヨブヨ」と「ブヨブヨ」では前者の方が良い印象を人に与えるというように、言葉の印象はその意味的内容だけでなく、音のイメージの影響も受けます。このような「音象徴」と呼ばれる感覚は、オノマトペ関連の研究(田守・スコウラップ, 1999ほか)、認知言語学(Lakoff 1980ほか)、脳科学的な視点からのアプローチ(Ramachandran, 2001ほか; 右図参照)などで広く支持されています。

グローバル化が進み英語が国際語として使用される現在、英語のどのような音声の情報、どのような聞き手に、どのような心理的効果をもたらすかを解明することで、より効果的なコミュニケーション活動が行われることが期待されます。

本研究では、調査対象地域を日本語圏、英語圏に限定せず、国際的コミュニケーションのニーズに応じて、多様な言語圏で調査を行います。特に本研究から得られた知見は、言語教育、マーケティング、文学・芸術などの分野に応用可能です。



英語話者であるか否かに関わらず、95-96%の人は左が「ブーバ」で右が「キキ」だと答える。
ラマチャンドラン(山下訳, 2011:107)より抜粋

■ 他の研究/技術との相違点

日本語オノマトペのイメージについては研究が進んでいますが、本研究では英語音素のイメージに着目し、英語の音が人に与える印象と、その印象に普遍性と言語個性があるかを検証します。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

web上で入力された英文中に含まれる各音素の比率を自動的に算出する「音素カウンター」を2016年夏に一般無料公開しました。このシステムを用いて、現在、ジャズ楽曲の歌詞に頻出する音素とコードの関係、絵本のページごとに頻出する音素と色の関係を探っています。

■ 関連業績(特許・文献)

中西のりこ(2012).『ジャズで学ぶ英語の発音』コスモピア(単行本).

中西のりこ(2013).「英語分節音とジャズ楽曲のイメージの関係:分類法とイメージ表現の妥当性の検証」外国語教育メディア学会(LET)関西支部メソドロロジー研究部会2012年度報告論集pp. 107-128.

中西のりこ(2015).「英語音素のイメージ比較-Semantic Differential法による三次元アプローチ-」LET関西支部研究集録第15号, pp. 67-88.

■ 研究者から一言

研究から得られた知見を、CMキャッチフレーズやネーミング、スピーチ原稿作成などに応用できればと考えています。